



兵庫県肝疾患専門医療機関

編集・発行 情報委員会
神戸朝日病院

住所：神戸市長田区房王寺町3丁目5-25
電話：(078) 612-5151
URL: <http://www.kobe-asahi-hp.com>

愛と健康の

かけはし

2019年11月発行

No. 70



当院における抗菌薬適正使用支援チーム (AST) の取り組みについて

副院長 藤井 貴子



●当院では今年3月、医師・薬剤師・臨床検査技師・看護師など多職種により構成された、抗菌薬適正使用支援チーム (antimicrobial stewardship team : AST) を結成し活動を開始いたしました。今回は、ASTの取り組みについてご紹介させていただきたいと思えます。

●どういった取り組みか？

外来や入院中の患者様に処方される抗菌薬の選択、用法用量、治療期間、副作用など使用に関わるすべてを、適切に管理・支援します。「抗菌薬の使用を制限する」活動ととらえられがちですが、根幹は「感染症診療の質向上」にあります。抗菌薬は使えば使うほど耐性菌が増加する可能性が高くなりますので、抗菌薬使用量と耐性菌の発生率の推移に目を光らせ、ASTの活動によって効果があったか (例えば耐性菌が減ったか、薬剤感受性率が改善したかなど) を定期的に評価し、臨床にフィードバックしています。

実際には、

- ・アンチバイオグラムの作成
- ・特定抗菌薬の使用前許可制度の導入
- ・抗菌薬アレルギーの交差反応表の作成
- ・吸収率の悪い経口抗菌薬の院内採用中止
- ・注射抗菌薬における長期投与の制限を行い、効果を上げています。

●このようなチームがなぜ必要か？

抗菌薬の新規開発は年々減っているのに対し、薬剤耐性菌が増加し世界的にも大きな問題となっています。耐性菌が増加すれば、やがて手持ちの抗菌薬では治療できず命を落とすということが起こります。目の前の患者様に丁寧な感染症診療を行うと同時に、未来に有効な抗菌薬を残す、いわば“木を見て森を見る”ことのできる実働部隊が必要なのです。

●皆様へのメッセージ

新しい抗菌薬や広域の抗菌薬は“強い”抗菌薬だという誤解が、まだまだ患者様にも、そして医療従事者にもあります。また、感冒や胃腸炎など多くがウイルスによって引き起こされる疾病に対して、いまだ多くの抗菌薬が処方されています。ウイルス性の感冒に抗菌薬を処方しても、喉の痛みや咳などの症状の緩和にはつながりません。また処方された抗菌薬の半数ほどは患者様が自己中断してしまって、しっかり内服されていないというデータもあります。患者様と医療従事者とが共に正しい理解をもって治療を成功に導くためには、抗菌薬を処方するときだけでなく、処方しないときにも時間をかけてコミュニケーションをとっていく必要があると考えています。当院でのAST活動はまだ始まったばかりですが、ゆくゆくは地域における耐性菌を減らす取り組みにつなげていきたいと思っています。日々の診療の中で何か疑問に思われること、わからないことがありましたら、ぜひお声掛けください。また当院のAST活動についてご質問などがございましたら、遠慮なくお問合せいただければと思います。

The image shows two tables. The first table, titled '抗菌薬交差反応一覧', is a grid with columns for antibiotic names and rows for various bacterial strains, indicating cross-reactions. The second table, titled 'アンチバイオグラム', shows the results of antibiotic susceptibility testing for various bacterial strains, with columns for different antibiotics and rows for the test results.

*耐性菌

抗菌薬 (抗生物質) が効かない菌。

*特定抗菌薬

幅広い菌に作用する抗菌薬で、当院では12種類の抗菌薬を特定抗菌薬と位置づけ管理しています。

*アンチバイオグラム

当院で見つかった主要な菌について、抗菌薬に効果がある／効果がないの割合を表にしたもの。

“Top Professional” を目指して

神戸朝日病院 3つのVision

BE KOBE ・ Top Professional ・ With Your Dreams

- “Top Professional”は、当院の医師、看護師など医療技術者から事務部門に至る全ての職員が、プロ意識を持って仕事に臨み、患者様に質の高いパフォーマンスを提供できる力をつけるということを表した当院のVisionのひとつです。
- 当院では、医師やコメディカルスタッフが、学会や研究会、セミナーに積極的に参加し、自らの知識・技能のアップデートを図ると同時に、院内においても、WEBセミナーの聴講など、“学びの環境”を数多く設けています。
- 9～10月は、外部から実習生を受け入れることが1年で最も多い時期になります。多くの学生さん達と共に医師の講義を受ける機会も増え、実習生を受け入れる部署においては、学生に指導をするために、自ずと知識・技能のアップデートを行うことになります。
- 医療技術は日進月歩、常に向学心と探求心を持って“Top Professional”を目指して、これからも努力を積み重ねていきたいと思えます。

【合同初期体験実習】

9月10日、神戸大学医学部医学科・保健学科及び神戸薬科大学薬学部の合同初期体験実習生を受入れしました。毎年この時期に体験実習が行われますが、今年も1年生7名(医学科2名、看護学科1名、検査技術科1名、作業療法学科1名、薬科大2名)が実習に参加されました。

入学後間もない1年生の方々に、飛び交う医療用語もよく理解できなかったと思いますが、病棟・各部署の見学や栄養サポートチーム(NST)ミーティングに参加し「チーム医療の実際」を体験していただきました。将来、医療人として活躍される日が楽しみです。



【看護学生実習】

9月30日～10月3日まで、神戸看護専門学校の学生10名の基礎看護学実習を実施しました。バイタルサインの測定、食事介助、保清・処置の見学、地域包括ケア病棟では、患者様と一緒にロコモ体操に参加したり、入院患者様との会話(コミュニケーション技法の習得)等に加え、金会長による医療の最新情報の講義などを受けました。

【薬学生実習】

1年を通して近畿圏の複数の大学の薬学部5回生の臨床実習を受け入れています。

8月26日～11月8日(11週間)は4名の学生が当院で実習中です。日中は病院薬剤師の業務を学びながら、夕方には、薬剤メーカーの勉強会や金会長のミニレクチャーに参加する等、目一杯勉強しています。

こうした“学びの環境”の他、薬剤科では、神戸薬科大学と「B型肝炎治療における薬剤変更前後での有効性と安全性に関する比較」の共同研究を行う等の取り組みも行っています。



【栄養科臨地実習】

栄養科では、10月10日～11月1日の3週間、武庫川女子大より管理栄養士過程の実習生2名を受け入れてしています。期間中は、大きく「栄養管理」と「給食管理」を学んでいただきます。具体的には、厨房での調理業務や献立作成、病棟では総回診やNST回診に参加したり、実際に栄養指導を見学します。また各自課題を決めて取り組み、実習の終わりには報告書にまとめます。因みに、今回の実習生は“NSTなどの多職種連携について”“肝疾患とその栄養管理について”というテーマで、医師、看護師、薬剤師、社会福祉士からも様々なレクチャーを受けながら、学んでいただいています。



【社会福祉士相談支援実習】

地域医療連携室では、10月15日～11月1日まで社会福祉士の相談支援実習生を受け入れてしています。

社会福祉士の業務は、療養中の心理的・社会的問題の解決調整援助、退院援助、社会復帰援助、受診・受療援助、経済的問題の解決調整援助、地域活動と多岐にわたりますが、期間中は実習指導者である先輩社会福祉士の指導を受け、実際に体験して頂きます。医療機関によって実習方法は異なりますが、当院で実習を受けて頂いた学生からは、他部署・多職種の職員が協力的で、共に学ぶ環境を評価していただいています。

今年7月には、兵庫県社会福祉士会より、優秀実習施設として表彰されました。



【在宅看護実習】

10月8日～11月8日の期間中2回に分けて、在宅看護実習のために神戸看護専門学校の学生を受け入れてしています。地域包括ケアシステムを理解し、在宅医療に携わる保険・医療・福祉の連携方法や、在宅看護について学ぶこと、訪問看護に同行し、在宅看護における基本姿勢、態度を学ぶことを実習目的としています。短期間ながら各自1名の患者様を受け持ち、学生ならではのフレッシュな発想で看護過程を展開しながら学んでいきます。患者様にもとても喜んでいただいています。



消費税増税に伴う人間ドック等価格改定のお知らせ

- 消費税法改正による消費税率の引き上げに伴い、令和元年10月1日から人間ドック、健康診断及びオプション料金を下記のとおり改定させていただきます。
- 今後も皆様に快適に健診を受けていただけるよう努力してまいりますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

◇ 人間ドック・健康診断 料金表 ◇

	検査方法及び検査でわかること	料金(税込)
日帰りドック	半日で全身のスクリーニングが出来ます	31,250円
基本健康診断	診察・身体測定・血圧・検尿・健康診断証明書	4,400円



なお、詳細につきましては、当院のホームページにてご確認 若しくは、健診係までお問合せください。

- 当院ホームページ：<https://www.kobe-asahi-hp.com/>
 - 健診係：078-612-5142 (直通)
- * ホームページから人間ドックの予約ができます。

【ナッツかぼちゃのグラタン】

栄養科 管理栄養士 小山 徐奈



●秋の味覚として、おかずにもお菓子にもなる万能野菜「かぼちゃ」。かぼちゃには抗酸化力の強いビタミンA・C・Eがたくさん含まれています。なかでもビタミンAは免疫機能を助け、目や歯、骨、肌、爪の健康を保つはたらきがあり、風邪やがん予防、動脈硬化予防への効果が期待出来ると言われています。これから寒くなる今、まさに摂取したい栄養素です。かぼちゃの中で栄養素が一番高い箇所は、実は皮の部分。なるべく皮ごと食べるのがよいそうです。そこで、かぼちゃを丸ごと利用したグラタンを紹介します。

●今回は9月～11月が旬で皮がやわらかいバターナッツかぼちゃを使いました。

材料 (2人分)

かぼちゃ(バターナッツかぼちゃ) : 1/2個
 ベーコン : 2枚
 玉葱 : 1/2個
 塩・コショウ : 少々
 バター : 8g
 牛乳又は水 : 100ml
 ホワイトシチューの素* : 15g
 コンソメ : 小さじ1杯弱
 ピザ用チーズ : お好みの量



■栄養量 (1人分) エネルギー : 約550kcal 塩分 : 約2.8g

作り方

- ①かぼちゃは種をくりぬきレンジでやわらかくなるまで加熱しておく。
- ②ベーコンは1cm、玉葱は0.5cmにスライスする。
- ③熱したフライパンにバターを入れ②を炒め、牛乳・コンソメ・ホワイトシチューの素を入れとろみがついたら塩コショウで味をととのえる。
- ④かぼちゃに③を入れピザ用チーズをのせオーブンで焦げ目がつくまで焼く。

*シチューの素がない場合

- ③熱したフライパンにバター(12g)を入れ②を炒め、小麦粉小さじ1杯を加え粉っぽさがなくなるまでよく炒める。
- 牛乳100mlを少しずつ加え最後に塩コショウで味を調える。

電子カルテ導入のお知らせ

～ 当院では、9月1日より「電子カルテシステム」を導入いたしました ～



●電子カルテシステムの導入は、院内情報の共有と伝達をスムーズにし、それがひいては効率的な診療が可能となると共に、診療の質と患者様へのサービス向上へ繋がると考えています。

●想定外のトラブルやシステム操作への不慣れにより、受付や診療・会計等の遅滞が生じ、ご迷惑をお掛けすることもあるかと存じますが、何卒ご理解とご協力の程よろしくお願い申し上げます。



編集後記

10月も半ばを過ぎたころから朝夕冷え込み、ようやく秋らしくなってきました。冬に向かって、そろそろインフルエンザやノロウイルス・ロタウイルスが原因となる胃腸炎の流行が始まる季節です。今年も当院では10月15日よりインフルエンザワクチン接種を開始しました。流行に備えて、外出した後の「手洗い」「うがい」を心掛けましょう。ワクチンを接種しても効果が出現するまでに2週間程度かかるので、12月中旬までに接種をおすすめします。(文書課 松井未佳)

認定施設

- 二次救急指定
- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本内科学会教育関連病院
- 臨床研修指定(神戸大協力型)
- 日本医療薬学会認定薬剤師研修施設
- 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設

交通のご案内

神戸電鉄「長田駅」より徒歩5分
 神戸市営バス ③・⑥・⑪・④⑩・⑩⑩
 「房王寺町5丁目」バス停より徒歩5分

